

株式会社のしくみ

～生徒の主体的な活動や

言語活動を取り入れた授業づくり～

長野県公立中学校教諭

1 はじめに

公民的分野は地理的分野や歴史的分野に比べて、生徒にとって自分自身の生活とのかかわりを感じられる分野だと考えている。

日々のニュースで知りうる情報、政治や経済の動き、そして生徒みずからも資本主義の社会のなかでまさに生活をしている。とかく物の売買の場面では、自分自身の生活体験を想起しながら授業へと取り組むことができるため、「そういうことだったのか!」と、授業と生活とが結びつき、より深い体験的な理解となる。

学習指導要領の公民的分野の内容にも

(2) 私たちと経済

ア 市場の働きと経済

身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。また、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させるとともに、社会における企業の役割と責任について考えさせる。… (以下略)

とある。しかしながら、自分とは遠くのところでおこっているできごとについては、ひとつひとつとなってしまう深い理解につながらない。そこで大切になってくるのは、「自分だった

らどうするか?」を考えさせ、教材や授業内容をより生徒に身近に感じさせることである。

『社会科 中学生の公民』(以下、教科書)には、中学生が実際に「自分だったらどうするか?」を考えたり、シミュレーションをしたりできるような教材が数多く掲載されている。とくに単元の最初でこれらを利用して授業を構成すると、自分とは遠くの存在であるできごととの距離を近くし、「わからない」、「関係ない」という生徒がもっているマイナスのバイアスを少し取り除くことができる。「自分たちでも考えられるのだ」、「難しくないんだ」と最初に思わせることができれば、それ以後の授業も生徒自身の精神的な負担が減り、単元を通して、「自分だったらどうするか?」に返ることによって、全てを考えることができる。

今回は『企業を通して経済を考えよう』(教科書p.124～155)の単元の導入部分で扱う題材を中心にすえ、その題材を『株式会社のしくみ』(教科書p.128)で利用することにより、自分のこととしてとらえられるような授業をしくみたいと考えた。

2 単元の構想

教科書p.125に掲載されている『ステップアップ 企業の企画書を書いてみよう』(資料1)を扱う。「1 つくってみたい企業を考

えよう」では、生徒がみずから興味をもって
いるものを中心にして、企業を考えることが
できるので、生徒の取りかかりがよい。また、
この題材に生徒が会う時期が中学3年生で
あり、高校進学や就職を含め、自分の進路を
考え出している時期であるということがより
いっそうありがたい。進路学習とあいまって
生徒は少しずつ自分の将来について考え始め
ているので、「将来こんなことをやってみた
い」、「将来こんな職業につきたい」と容易に
考え始めることができるのである。

また、「2 パン屋の経営者になってみよう」
はシリーズものであり、これ以降単元のそれ
ぞれのページに登場するので、その都度「自
分だったらどうするか？」に返ることができる
(資料2, 3)。全部で①～⑫まであり、単
元の最後(教科書p.152, 資料4)では、こ
の「パン屋の経営をふりかえる」ことによっ

て、あらためて自分の考えと経済の現象を結
びつけることができ、「ひとごとであると思
っていた企業のことを中学生である自分も考
えられた!」という自信にもつながる。

しかし、これだけの「自分だったら」とい
うシミュレーションを一回一回、授業では、
なかなか扱えないこともある。また、『株

パン屋の経営者になってみよう③ ①どのような企業の形態がよいか?—

準備に売り上げがのびてきたので、事業の拡大を考えました。企業をどのような形態にするのがよいでしょうか。あなたの選択とその理由を?

選択理由
A: 現在の形態(個人企業)のまま、経営に困っている他の店舗を一つ買い取る
B: 現在の形態のまま、もう1店舗増やす
C: 新たに株式会社形態をとる
D: その他

Cの場合
メリット: 新たな資金を調達しやすい
デメリット: 株式会社にすると手続きが必要になる

資料2 『社会科 中学生の公民』 p.129

パン屋の経営者になってみよう⑥ ②生産を増やすための資金をどうするか?—

需要を拡大するために、新たな工場をつくることにしました。そのための資金はどうしたらよいでしょうか。あなたの選択とその理由を?

選択理由
A: 売り上げの一部から資金をまわす
B: 銀行から資金を借りる
C: 株式をさらに発行して資金を集める
D: その他

Aの場合
メリット: 新たに資金を集める努力が少なくてすむ
デメリット: 一度に多額の資金を用意できない

資料3 『社会科 中学生の公民』 p.135

ステップアップ 企業の企画書を書いてみよう

1 つくってみたい企業を考えよう

企業がどのようなものか、理解できたでしょうか。自分で企業をつくるとしたらどのような企業をつくりたいか。意見を出し合ってみましょう。

自動車会社
これからは環境にやさしい自動車が必要だ。

パン屋
おいしいパンをみんなに喜んでほしい。

ゲームソフトの製作
ぼくはゲームが得意だし、もうかりそうだから。

ペットショップ
ペットはブームだし、新しい人が増えそうよ。

2 パン屋の経営者になってみよう①

あなたがパン屋の経営者になったと想定してみよう。ここからは、学習した内容をパン屋の経営にあてはめて考えていきます。

初めは企画書の作成からです。最初はあまり書けないところがあるかもしれませんが、学習を進めるうちにできるようになることでしょう。さあ、がんばりましょう。

◆**【企業名】** ◆**【事業内容】** ◆**【セールスポイント】** ◆**【店の場所】** ◆**【開業資金(元手)】** ◆**【その他】**

◆**【夢工房】** ◆**【パンの製造販売】** ◆**【おしゃれでヘルシーなパンをつくり、満足していただけるよう努力します。】** ◆**【東京都目黒区自由が丘】** ◆**【自分の預貯金 300万円】** ◆**【銀行から借りる 700万円】** ◆**【取引銀行 いちご銀行】** ◆**【従業員 家族とパートマ5人】**

※①さくらの企画書

それは世界中にお店をもつこと、どうすればできるかしら。

わからない項目もあると思いますが、考えられる範囲で記入しましょう。

資料1 『社会科 中学生の公民』 p.125

ステップアップ 企業の企画書を完成させよう

1 パン屋の経営をふりかえろう

この単元の学習を通して選択してきた、パン屋の経営をふりかえりましょう。友達とも意見交換してみよう。

ページ	p.127 ②	p.129 ③	p.131 ④
タイトル	主力商品の価格を決めてみよう!	どのような企業の形態がよいか?	ライバル店出現!
さくらの考え	200円にした。利益が少ないけれど、高級路線で売りたい。	株式会社にした。株式を発行して、お金を集めたい。	ライバル店には新しいパンをつくりたい。これでお客さんの心をつかみたい。
あなたの考え?	あなたの考え?	あなたの考え?	あなたの考え?
学んだこと	利潤	株式会社のしくみ	競争
p.133 ⑤	p.135 ⑥	p.137 ⑦	p.139 ⑧
評判があがった! もっと売れる!	生産を増やすための資金をどうするか?	どのような銀行とかわかる?	不況には? 勝つには?
デパートに出店したい。お店の知名度も一気にあがる。	銀行から資金を借りる。事前に成長している銀行も選んでくれるはず。	返済期間が長い銀行から借りる。利息を多く払っても毎回の返済額が少ない方が、むりが高い。	値引きをして販売する。味は落とさず価格が下がればお客さんも喜ぶはず。
あなたの考え?	あなたの考え?	あなたの考え?	あなたの考え?
流通	金融とのかかわり	金融機関	景気変動
p.142 ⑨	p.147 ⑩	p.149 ⑪	p.151 ⑫
次は海外の企業の競争だ!	働きやすい職場は?	優秀な人材を確保したい!	廃棄物を減らそう!
外国に工場をつくって現地生産・販売を行う。世界進出のチャンス。	仕事の成果に応じて支払う、がんばっている社員にはそれにあわせて賞金を支払いたい。	資金や経験をあげる。働いている人にもっとやる気だしてほしい。	売れ残りによる廃棄物を減らす。きちんと予測すれば無駄な費用もかからなくなる。
あなたの考え?	あなたの考え?	あなたの考え?	あなたの考え?
経済のグローバル化	労働	雇用形態	企業の社会的責任

資料4 『社会科 中学生の公民』 p.152

会社のしくみ』のページにある作業でもよいが、これはどちらかという学習の最後に扱う教材なので、作業を通してさらにより理解を深める授業で考えてみたい。今回は、これら二つの活動をベースにしつつ、より生徒に考えさせたいことを明確にして、簡素化した学習プリントを作成して授業を行った。

3 実際の授業

(1) 学習プリントと生徒間のやりとり

生徒には『企業を通して経済を考えよう』単元の1時間目の最初に、学習プリントを配布する(資料5)。単元の導入として、「自分なりの会社をつくろう」となげかける。

考える内容はまず「会社の名前」である。あまり学習自体には関係はないが、意外と生徒がこって考える部分である。自分の名前をとったり、実際にある会社の名前にアレンジを加えるなどする。「いかに自分の会社を知ってもらうかは名前にもかかっている」などというなげかけをすると、企業のPR活動へも学習が発展する。

次に「何(どんな商品)をつくる会社か、もしくは何を提供するか」を考える。生徒は、何かしらものをつくり出す会社(製造業)、あるものを売る会社(販売業)、さらに

はサービスを提供する会社など思い思いに自分の会社をつくっていく。ここで、会社にもいろいろな種類があることを学ぶこととなる。

また、みずから考えた「会社」に必要なものを書き出していく。ここには生産の三要素(土地・労働力・資本)に気づかせたいというねらいがある。多くの生徒は、資本の一つである原材料についてはすぐに視点が行き、「鉄」、「石油」、「水」などと書き出していく。ところが、なかなか設備投資については視点が向いてはいない。

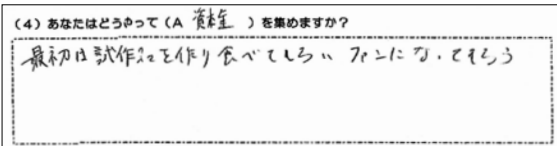
しかし、友達どうしで意見をかわしながら学習をしたり、グループで発表をし合ったり、また全体での発表をしたりすることを通して、原材料だけではなく「機械」などの設備が必要であること、そもそも、工場や販売するための店舗などの土地が必要であるということ、またそれらを使って「商品」や「サービス」をつくり出すのは「人(労働者)」であることに気づいていく。なかには、その「人」の「知恵」や「技術力」が大事だと気づき出す生徒が出てくる。また、人の営みには自分たちの保護者がもらってくる「給与」がかかわって来ると気づく生徒もいて、「人」を雇うには「賃金」が必要であり、また前述した「土地」も「資本」も全て、「お金」がないと手に入れることができないことに気づいていく。

<p>会社の名前</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">Candy Candy</p> <p>(1) 何(どんな商品)をつくる or 何を売る 会社ですか?</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 色々なお菓子の会社 たくさん使われているお菓子の会社!! たくさんのお菓子を販売!! </p> <p>(2) その商品をつくる or その活動をする のに必要な物は何ですか?</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 色々なお菓子の会社 色々なお菓子の会社!! 色々なお菓子の会社!! </p>	<p>会社の名前</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">NIIROBOTRYニイロ</p> <p>(1) 何(どんな商品)をつくる or 何を売る 会社ですか?</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> お年寄りや体の不自由な人を助けたい ロボットを作る会社 </p> <p>(2) その商品をつくる or その活動をする のに必要な物は何ですか?</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> お金、人手、部品、株主を作る機械。 知識、工場、売ってくれる店。 </p>
--	--

資料5 学習プリント

自分の学習と友人の学習が結びつき、最初の自分の学びに肉づけがされていく。

「会社をつくろう」の作業を通し、生徒が「お金」という概念まで行きついたら、「どれぐらいのお金が必要か」、「そのお金はどのように手に入れるのか」と生徒に問う。自分が考えた会社を開くためにはどれぐらいのお金が必要なのか（資料6のA＝資本金）、資本金をどう集めるのかをあらためて考えさせる。



資料6 学習プリント(つづき)

生徒はまず、「親に借りる」や「貯金」といった自分に身近な方法を考え出す。自分のはじき出した資本金の金額をそれだけで集めることができないことにしだいに気づいていく。すると「銀行に借りる」という方法にたどりつく。ここで銀行と企業のかかわり、つまり金融の役割を学ぶ導入に結びつけることができる。そんななか、「親に借りる」という考えが派生すると「友達に借りる」、「クラスみんなに出してもらおう」など出資するという考えに行きつくようになる。そこから「株式を発行し資金を集める方法がある」ということを生徒に学ばせる。

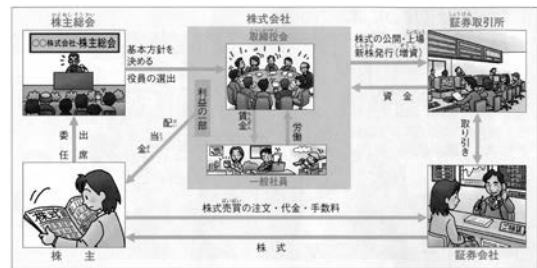
(2) 「株式会社のしくみ」

「企業の最大の目的はより多くの利潤を得ることである」という認識のもと、自分たちが考えた会社のなかで、一番利潤があがりそうな、もしくは魅力のある会社を一つ例にあげてみる。

ここからは、実際にその会社を考えた生徒を会社の経営者に、まわりの仲間を株主に見立ててロールプレイ形式で授業を行う。

会社の経営者役である生徒に、自分の会社

の魅力を語らせる。そして、ほかの生徒たちにはその会社にくらであつたら自分は出資することができるのかを考えさせ、やりとりをさせる。また、利益があがったら、株式に応じて、配当金が支払われることや、もしも自分が株式をもっていた会社の利益があがらずに配当額が少なくなってしまうたらどう思うのか、そのために株主総会に出席し、経営陣に意見を伝える権利ももっていることなどを感覚的に理解させる。(教師はあらかじめ、簡易的な株券(株式)やお金、配当金をつくらせておき、生徒と生徒の間にはいり、それらのものを実際に使ってやりとりをする。)こうすることで、「株式会社のしくみ」(教科書p.129図③、資料7)の理解へと結びつける。



43 株式会社のしくみ

資料7 『社会科 中学生の公民』 p.129

さらには、その会社の利益があがったら、そのお金を何に使うか、従業員はどうするかなどを考えていくと、資本と利潤との関係(中学校では扱わないが拡大再生産のしくみ)や会社と労働者との関係とも結びつけることができる。

4 おわりに

冒頭でも書いたように、題材や教材と生徒との距離を導入の部分でいかに近づけることができるかが授業のキーポイントの一つだと考えている。生徒の生活体験や自由な発想とともに授業をつくり続けていきたい。